

水の上を歩いて

マタイ四・二三～二八  
イザヤ三〇・一五

みなが沢山食べて満足した後、イエスは群衆を離れ、ひとり山へ祈りにいきました。弟子たちも舟で自分たちだけで向こう岸へ渡るよう命ぜられました。沖へでると、突然強い逆風。湖の真ん中で立ち往生し、このままでは転覆も。恐怖に追いつ打ちをかけるように、波打つ湖上に謎の人影。

「幽霊だ」と弟子が叫ぶのもわかりません。

舟は、教会のたとえと言われます。歴史の荒波に、私たちもときに立ち往生しそうになります。不安と恐怖が募り、せっかく救い主に出会っていないのに、それを「幽霊」としか思えず、恐くて目を閉じてしまう。そんな私たちに今日、イエスは語りかけます。

「安心しなさい、私だ、恐れるな」。

気づいたペトロが大胆にも、主よ、あなたでしたら、私も水の上を歩いてそちらに行かせて下さい」と。よし、来なさい」と聞くが早いか、イエスに倣い水の上を歩き始めるペトロ。まっすぐイエスだけを見つめ歩み出すとき、このように驚くべきことが起ります。ただ、それもほんの「一瞬」。まなざしをイエスから自分の足元へ移してしまったペトロは、荒れ狂う湖上に立つ現実気づいた。そんなことありえない！怖がり震えた。最後まで信じ切ることのできなかったその姿に、私たちは自分自身を重ねます。せっかく湖上に歩み出すも途中足がすくんだ。ペトロは今日、失敗したのでしょうか。いいえ。失敗とは、最初から一歩も踏み出さないこと。ペトロはとにかく踏み出した。その後は主が責任をもってくださる。途中で足がすくむ私たちの手を、しっかりと握りしめてくださる方がいる。だから安心して、今日も歩み出せるのです。